

第一生命保険株式会社
三井住友ファイナンス&リース株式会社

SDGsリース『みらい2030TM』向け融資について

第一生命保険株式会社（代表取締役社長：稲垣 精二、以下「第一生命」）は、三井住友ファイナンス&リース株式会社（代表取締役社長：橋 正喜、以下「SMF L」）を借入人とし、SDGsリース『^{ミ ラ イ ニー マ ル サ ン マ ル}みらい2030TM』（以下「SDGsリース」）の設備取得資金を対象とする30億円の融資（融資期間10年）を実施しました。SDGsリース向けの融資は、国内で初めての取組みとなります。

SDGsリースは、SMF Lが株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教、以下「日本総研」）の支援を受けて提供する、ユーザーがリースを通じてSDGs達成に貢献できるリース取引です。リース料の一部をSDGs達成に資する公益財団法人またはNPO法人に寄付する寄付型と再生可能エネルギーや省エネルギー関連設備を対象に設備導入による効果などの評価書をリース取引にセットした評価型の2種類があり、SDGs達成への新たな貢献手段として、より多くの企業のSDGsへの取組みを支援します。

第一生命は、日本全国の約1,000万名の保険契約者からお預かりした約36兆円の資金を幅広い資産で運用する「ユニバーサル・オーナー」として、SDGs債やSDGs事業への投融資を推進しています。SDGsリースという新たな貢献手段を提供することで、より多くの企業の参画を通じたSDGs達成を目指すSMF Lの取組みを、第一生命は今回の融資によって資金面からサポートします。また、SMF Lは、長期安定資金を借り入れることで、SDGsリースの取扱いを継続的に拡大していきます。

第一生命は、引き続き、資産運用の高度化・多様化によって資産運用収益の向上を図るとともに、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、ESG投資に積極的に取り組んでいきます。

SMF Lは、中期経営計画（2020～2022年度）において、SDGs経営を成長戦略と位置付け、社会の持続的な発展に貢献することを掲げています。SDGs目標達成に貢献可能な新たなビジネスの創出およびSDGsに取り組む企業への支援を通じて、サステナビリティの実現に貢献していきます。

〔SDGsリース概要〕

名称	SDGsリース『みらい2030™』 (寄付型)	SDGsリース『みらい2030™』 (評価型)
対象取引	リース・延払	
金額	1契約あたり元本1,000万円以上	特段の定めはありません。
取扱総額	100億円(契約金額ベース)	上限はありません。
対象物件	特段の定めはありません。	再生可能エネルギー関連設備 省エネルギー関連設備
契約期間	契約期間及び回収期間が2年以上	特段の定めはありません。
商品の特徴	検収が行われた契約金額の0.1% (最大1,000万円)を公益財団法人 またはNPO法人にSMFL が寄付します。 ※寄付先はSMFLが決定します。 ※SMFLが寄付者となるため、ユーザーの 寄付金控除対象等には該当しません。	対象物件導入による環境面の効果 やユーザーのSDGsへの取り組み等 に関する評価報告書を日本総研が 発行します。
貢献可能な SDGs目標		
取引の開発・運用 支援	日本総研	
取扱期間	2021年3月末まで ※SDGsリース『みらい2030™』(寄付型)については、取扱総額に達した時点で受付を終了する場合があります。	

※契約にあたってはSMFL所定の審査・手続き等があります。

〔SDGsリース(寄付型)における寄付先：NPO法人キッズドア〕

特定非営利活動法人キッズドアは2007年に設立され、貧困など困難な状況にいる小学生から高校生世代までの子どもたちを対象に学習支援を行っています。また、東日本大震災の被災地の子どもたちを対象にした支援も行っています。

SDGsリース(寄付型)を通じた寄付金は、キッズドアの「高校生世代」事業において活用されます。同事業は、困窮家庭の高校生や高校を中退した若者を対象に学習支援を行うものです。具体的には、キャリア教育型学習支援や、大学受験対策講座、高校中退者向け学習支援、英語に特化した学習会、IT自習室など、高校生世代を対象にした総合的な支援事業に役立てられます。



以上